

## 「コウノトリ育む鳴門の人、環境、 農業にふれるコウノトリ生息環境の現場学習会」を開催しました

「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」は、地域のシンボルとして注目を集めているコウノトリとの共生をテーマに、現場で活動する地域団体、レンコン生産者、自治体等、様々な方々との交流・現場での体験を通じ、地域が抱える課題の解決や地域資源としての可能性を探ることを目的に、地方創生に取り組む銀行の行員を対象として、現場学習会を開催しました。



- 1.開催日時：平成30年5月18日（金）13：00～16：30
- 2.対 象：株式会社阿波銀行、株式会社徳島銀行、JAバンク徳島信連の有志
- 3.開催場所：板東南ふれあいセンター（旧鳴門市立川崎小学校）、コウノトリの巣周辺のハス田
- 4.内 容：（1）吉野川流域生態系ネットワークについて（徳島河川国道事務所）  
（2）鳴門市でのコウノトリとの共生に向けた取組み（鳴門市長 泉 理彦氏）  
（3）コウノトリとコウノトリの生息環境について・レンコン堀り体験（現場体験）



説明者：徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授 河口 洋一氏  
徳島希少鳥類研究会 事務局長/コウノトリ定着推進連絡協議会 柴折 史昭氏  
コウノトリ定着推進連絡協議会 会長 竹村 昇氏

- （4）学習のふりかえり



岩男河川調査官



会場の様子

### ■開催趣旨■

初めに、国交省がなぜこういう現場見学会をおこなっているかということ、説明させていただきました。

理由は2つ。

- ・1つ目は流域単位で生態系の保全を実施する。
- ・2つ目は河川環境あるいはその流域の環境を利用して地域活性化に繋げる。河川管理者だけではできない事でも、流域の皆さんで繋がればいろんな事ができるのでないかという思いで、皆さんを繋げるお手伝いをさせていただきたいと考えています。

参加いただいた皆さんからアイデアをいただきながら、取り組みを続けていきたいと思っています。

## ■現場体験■

現場体験では、河口氏、柴折氏からコウノトリの生態や、コウノトリの生息環境であるハス田とそこに生息する生物について説明があり、竹村氏よりレンコン研究会の取り組みや減農薬栽培の取組について説明がありました。



望遠鏡でコウノトリを観察する参加者



ハス田周辺に生息する生物について説明する河口先生



レンコン研究会の協力によるレンコン堀り体験の様子



レンコン田について説明する竹村氏

## ■学習のふりかえり■

最後に学習のふりかえりとして、コウノトリを活用した地域づくりをテーマに、グループディスカッションを行い、たくさんの意見が得られました。

＜グループディスカッションでの主な意見＞

- 「ふれあいセンター」を観察拠点にしてみてもどうか。屋上に望遠鏡を何台か置いてみる、天気が悪い日は屋内でカメラのモニターで見る、巣にいない時はビデオを上映するなど、来てもらった人に何らかの形でコウノトリを見てもらうとよい。
- 最近の若者は「インスタ映え」という言葉が好きなので、レンコン畑の景色を楽しめたり、コウノトリが観察できるカフェ等があるとよい。
- コウノトリには「幸せな鳥」や「赤ちゃんを運んでくる」というイメージがあるので、プライダルに関連した施設の設置や、赤ちゃんのお守りを作ってみてもどうか。
- レンコン堀り体験が楽しかった。高速のインターから近く、立地が良いので、体験型観光や、都市部の小学生の宿泊学習での利用が期待できる。



## ■今後に向けて■

今日いただいたアイデアも、実現していくには次どうしていったらいいのか、そういう事をまた皆さんと話し合っ進めていけたらなというふうに思っておりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

